

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

北見工業大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画で「語学教育の充実を図る」としていることについて、英語必修単位の4単位から7単位への増大、TOEIC受験の義務付けと受験料補助、海外英語研修制度、大学院における「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の必修等は、学生の英語力を向上させ、国際性を身に付けさせているという点で、特色ある取組と判断される。

- 中期計画で「専門的な資格試験への挑戦を支援する」及び「キャリア教育を充実する」としていることについて、資格取得による単位認定制度の確立や卒業生等の講師によるキャリア教育を実施していることは、特色ある取組と判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画で「各種広報媒体の活用を積極的に検討する」及び「道外からの志願者への便を図るため、道外試験場の設置を検討する」としていることについて、入学志願者の確保、増大を図るため関西試験場を設定したことや国際的な広報活動を実施したことにより、全入学志願者に対する道外志願者の割合は約 50 %を確保し、全国的に見ても高い志願倍率を保持していること、また多くの留学生を確保していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「指導教員以外の関連する複数の教員に対してもプレゼンテーションの機会を設け、その結果を成績評価に反映させる」としていることについて、修士論文の発表会を学外者にも公開していることは、社会に開かれた大学として、また学生、教員両者の質の向上に資するという点で、特色ある取組と判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画で「教員配置の弾力的運用のもとで教育を実施できる体制に変更する」としていることについて、教育組織の改革により、学生の入学、学科選択、転科の弾力性を確保し、また教員を学科に所属させず、人事を全学的に行える体制として構築したことは、教育、研究両面における柔軟性、学生、教員両者の弾力的配置が可能とな

り、学生への教育効果の向上が期待される体制を構築した点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「教育活動の改善につなげる表彰制度あるいは予算配分などのインセンティブ制度を設けるとともに、学長、副学長による改善指導を実施する」としていることについて、授業を公開し、学生だけでなく教員相互や役員による授業評価を行い、優れた授業を行う教員に「ベストティーチング賞」を与えていることは、授業の質の向上に資するという点で、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「入学から卒業に至る、学習・研究及び生活の全ての面で支援体制を充実・強化させることにより、留学生等を含むすべての学生が、在学中快適な学園生活を享受できる環境を作り出すように努める」としていることについて、修学、生活、就職、健康面でのトータル的なケアや道内外での保護者懇談会の開催等、学生支援をきめ細かに行ってきた実績により新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに採択されたことは、優れた取組であると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「個々の学生の修学状況を把握しながら、学生からの修学相談に責任を持って対応する担任制度を確立する」としていることについて、3 学科において個別担任制度を実施し、学生に対する修学・就職及び生活面での支援を行っていることは、教員が学生の支援をきめ細かく行っている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「奨学金制度、学生寮など、従来型の経済支援の他、生協などと連携して日常生活への支援も充実させ、経済的問題で学業に影響が生じないような支援体制を検討する」について、地域住民等による後援会組織「KIT げんき会」を設立したことは、大学と地域が学生を相互に支援している点で、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「地域の特質や産業の背景、及び要請等の高い研究分野に重点化し、その研究水準の向上と成果の社会への還元を目指す」としていることについて、ロシア、フィンランド等寒冷地域の外国大学や地域と連携し、ニーズに基づく特色ある研究を実施し、環境・エネルギー分野、バイオ・材料科学分野、農学分野等との連携を拡大することにより、特色ある高度な研究実績を上げ、またその成果を地域に還元していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標で「地域に根差した研究を進展させる」としていることについて、寒冷地という立地環境を活かした個性ある研究を行う中で、寒冷地域の社会基盤関連や地域の植物、農産物と密着したバイオ・材料科学分野及び農工、医工連携による新しい分野の研究に取り組み、その成果の地域への還元を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画で「教育組織と研究組織の流動化が可能な組織に再編する」としていることについて、4 重点研究分野を設定し、教員を従来の学科所属ではなく各研究分野に所属させる新しい教育研究組織体制を構築したことにより、全学的な視野による適切な比率での教員配置や研究費の重点的な配分を行ったことは、優れていると判断される。
- 中期計画で「技術部の組織改革を行い、(中略) 優先配置が可能な組織にする」及び「非常勤研究員・技術員の雇用を(中略) 増員する」としていることについて、外部資金の間接経費等を活用したポスドクを多数採用したこと、及び技術員を重点研究分野や全学共通的業務等に優先的に配置できる体制としたことは、教育・研究支援体制の強化という点で、優れていると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「地域社会と大学との連携・協力体制を実効あるものとする」としていることについて、北見市をはじめとする地域社会との連携・協力として、北見市産学官連携推進協議会に積極的に参画し、地域産業への支援や新事業（企業）の創出といった成果を上げていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標で「研究面では国際共同研究などを推進する」としていることについて、寒冷地域の大学や研究機関との国際共同研究や国際協力機構（JICA）との寒冷地社会に関する共同研究を実施していることは、特色ある取組であると判断される。